

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
2021年10月3日(日)
黒田 禎一郎

主 題：「信仰の視点はどこに」
—信仰の姿勢—

テキスト：第2ペテロの手紙2章15節16節

はじめに

- ・前回、第2ペテロの手紙2章からメッセージしましたが、早くも4週間の時間が経過してしまいました。そこで、前回学んだ点を少し復習し、そして今日のメッセージに入りたいと思います。
- ・ペテロは先ず、第2の手紙で信仰から外れた「異端者の実像」を述べてきました。当時、キリストの福音が語り伝えられた小アジアにおいて、神の福音を曲げて、信仰者を墮落させてしまった異端が発生していたからでした。そして、その異端は悪魔の力によるもので、現代に至るまで、世界各地で猛威を振るっていることを学びました。
- ・そこでペテロはクリスチャンたちが、偽預言者、偽教師に惑わされることがないように、神にしっかりつながれるように、この手紙を書きました。前回のメッセージにおいて、ペテロは彼ら偽預言者、偽教師の姿について2点上げました。

① 快楽を求める人たち

- 2:13 彼らは不義の報酬として損害を受けます。彼らは昼間から飲み騒ぐことを楽しみとしています。彼らはしみや傷であり、あなたがたと一緒に宴席に連なるとき、自分たちのだましごとにはふけるのです。
- ・昼は神のみわざを行う時ではありますが、(ヨハネ9：4) 彼らはその大切な時に、飲んで騒ぎ、聖徒の愛の交わりではしみのような存在でした。

② 性的なことに執着する人たち

- 2:14 その目は姦淫に満ち、罪に飽くことがなく、心が定まらない人たちを誘惑し、心は貪欲で鍛えられています。彼らはのろいの子です。
- ・ペテロはそのような社会で生きるには「信仰の視点が大切」とであると語りました。私たちも迷いやすく、正しい道から外れやすい羊のような存在です。羊飼いであるイエス・キリストから目を離すならば、簡単に道に迷う存在であることを忘れてはいけません。
 - ・今の時代、私たちを取り巻く社会は決して甘くはありません。悪の働きを見くびってはなりません。霊の働きを軽々しく考えてはならないのです。そこで大切な生きる姿勢は、ヘブル人への手紙12章2節にあることを学びました。

- 12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。
- ここまでが、前回の説教でした。今日のメッセージはその続きです。今日の聖書箇所も同じく、偽預言者、偽教師が存在する社会で、クリスチャンが間違えることがないようにと注意を促すものであります。2点考えてみたいと思います。

大切なポイント

1. 使徒たちと異なる教え

- 初代教会時代、使徒たちが語り、教えてきたクリスチャン・ライフに異議を唱える人々がいました。そしてその誤った教えに多数の聖徒たちが、汚染されていました。
- ペテロは第1の手紙において、クリスチャンに求められる生き方について次のように述べました。

1:13 ですから、あなたがたは心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。

1:14 従順な子どもとなり、以前、無知であったときの欲望に従わず、

1:15 むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。
- 主イエス・キリストを信じ救われた者たちには、古いものを脱ぎ捨てて、新しい歩み始める責任があります。パウロはこう言いました。1コリント6章6:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。

1) 自由な生き方を好む人たち

- ところが、教会の中にはそのような生き方を喜ばない、むしろ自由奔放な生き方に走る人たちがいました。それは「先祖伝来のむなしい生き方」、「無知であったときの様々な欲望に従う生き方」でした。つまり福音は受け入れても、福音に従うことを喜びませんでした。
- 神の愛、罪の赦し、たましいの救いというメッセージを喜びました。しかし神に愛された者としてどう生きるか、神に罪が赦された者としてどう生きるか、また神の姿に似せられていくにはどう生きるか、などについては考えることがありませんでした。
- つまり、自分の古い生き方や悪しき習慣には目をつむったままでした。このような考え方をもち人は現代にもいます。彼らは一度は神を信じ、神の愛に与った人たちでした。しかし古い生き方や悪しき習慣から離れられないのです。それらは肉を喜ばせるものです。肉に勝てないのです。

2) 変えられた生き方を好む人たち

- ・人間がもつ習性のひとつに、自分は変わりたくないとき、相手に変わってもらいたいという思いがあります。皆さんはいかがでしょう。相手はそんな簡単に自分の意見を聞いて、変わってくれものではありません。それは私たち人間関係で、経験することです。
- ・同じように、キリストの福音に従えないとき、福音の理解そのものを変えようとしてしまうことがあります。ペテロは次のように述べました。

1:20 ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。

- ・また3章では次のように述べています。

3:16 無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の箇所と同様、それらを曲解して、自分自身に滅びを招きます。

ペテロは言いたいことは、ここにあります。

- ・ペテロはその人々を偽教師と呼びました。教師と呼ばれるぐらいですから、指導的立場にあった人であったでしょう。残念であったのは、信仰がまだ若いクリスチャンを独自の解釈で説得していたことです。そして自分たちが断念した生き方を、彼らにも断念させようとしたことでした。それは主に忠実に生きようとする人たちの歩みを妨げることになりました。
- ・ペテロはこの問題を軽く見ることはできませんでした。ですから、このように述べました。第2 ペテロの手紙

2:15 彼らは正しい道を捨てて、さまよっています。

現実には、その偽教師によって誤った道を歩いていた人たちは、人生をさまよい歩んでいました。そこでペテロは、旧約聖書を開いて、一つの例を引きました。それが次のポイントです。

2. 反面教師に学ぶこと

2:15 彼らは正しい道を捨てて、さまよっています。ベオルの子バラムの道に従ったのです。バラムは不義の報酬を愛しましたが、

2:16 自分の不法な行いをとがめられました。口のきけないろばが人間の声で話して、この預言者の正気を失ったふるまいをやめさせたのです。

1) バラムの道

- ・私たちは「バラムの道」とは、いったい何であろうかと思えます。しかも口がきけない動物ロバが人間の声で話したとありますから、ますます分からないものですね。しかし、ユダヤ人にとっては分かる例でした。バラムが歩いた道は曲がった、神から離れた道であると知られていました。つまり偽善者の典型

でした。

- バラムについては旧約聖書民数記 22～24 章に書かれています。
短くいうならば、バラムはこういう人でした。彼はモアブの王バラクに便宜をはかり、せつかく神のことばを示されながらも「不義の報酬を愛し」て、神に従わなかった人でした。口と心が別々の人物でした。
- 神はそのバラムに天使を送り、道を示して何度も忠告されました。しかもロバの口を通して話すという超自然的方法で、バラムに語られたのです。バラムは後に悲惨な末路をたどりました。民数記 31 章に次のように記されています。
31:8 その殺された者のほかに、彼らはミディアンの王たち、すなわち、エウイ、レケム、ツル、フル、レバの五人のミディアンの王たちを殺した。また、ベオルの子バラムを剣で殺した。
- 偽教師のあわれな末路を示す例でした。

2) キリスト者の道

- ところで、今日の世界を考えてみましょう。
今の時代は AI が盛んになり、科学が進み、人間の知識がどんどん栄えてきました。少し前までと比べるならば、それは目を見張るようなものです。
- しかしさまざまな迷信やゆがんだ禁欲主義、それに誤った自由解放を叫ぶ声が多く聞かれます。その反動で、極端な方向へ傾いてはいないでしょうか。無秩序、道徳性の低下、父権の低下、芸術の墮落、墮胎問題、フリーセックス、校内暴力、同性愛問題など多々あります。
- これらが普通化した時代に生きる私たちは、いったいどう生きるべきでしょうか。⇒それは聖書の権威と聖霊に支えられて生きることです。それは新生したクリスチャンとして、恵みの性格を備える者として歩むことです。ペテロはすでに第 2 ペテロの手紙 1 章 5～7 節で、次のように述べました（復習）。
1:5 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、
1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、
1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。
- ここに、七つの徳目が挙げられていますので注目してみましょう。

●七つの恵みの性格

① 「信仰には徳を」

- 徳とは「道徳的な立派さ」のことです。それは主イエスのうちに現された徳、すなわち神のご性質を表します。キリスト者が主イエスとともに生きる歩みの中で、信仰に徳が加われば、主イエスに似せられ、主のきよさ、謙遜、優しさ、柔和を身に着ける人となります。

② 「徳には知識を」

- ・神のご性質を身に帯びていくためには、「知識」を増す努力も必要です。しかし知識ばかりを追求し、信仰生活が形骸化してしまっではいけません。過去のキリスト教史をとおして、私たちは反面教師を多く見ることができます。
- ・信仰生活の実践には、知識による方向づけが必要です。物事を正しく判断し、正しく判断していくために、みことばによって養われた視力が必要となります。また知識とともに知恵が、私たちの身を守ってくれます。ですから、知識が加えられることが大切です。

③ 「知識には自制を」

- ・自制とは、自分自身を正しく管理するということです。ペテロの時代、キリスト者は異教社会の中にあつた不道徳と直面させられていました。彼らは正しく生きようと願ってはいても、周りに誘惑する環境がありました。それは今の時代もそうではないでしょうか。
- ・私たちの心は燃えていても、たやすく神のみこころを見失ってしまいます。そして、自分の欲の方へ引きずられてしまう弱さがあります。ですから、大切なことはその弱さに、どれほど気づいているかです。
- ・神は弱い私たちのために、贖いのみわざを成し遂げてくださいました。弱さによって永遠の滅びに向かうことがないように、逃れの道、救いの道を備えてくださいました。それは次のみことばが示してくれています。第1ペテロの手紙1:4 それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。
- ・私たちは、キリストの十字架によって律法は廃棄されたことを知っています。そして自由となりました。しかし、その自由をどのように用いるか、自由を何のために用いるか、自分を喜ばせるためであるか、あるいは神を喜ばせるためであるかです。自分を律するということが大切です。与えられた自由を、どのようにコントロールし、信仰者として生きるかが問われます。自制は大切です。
- ・自制には、管理も伴います。たとえば時間の管理ですが、多忙な方には、正しく管理する知恵が必要です。忙しい生活の中で、つい時間が足りないように感じます。しかし時間は造り出すもの、生み出すものとも言われます。
- ・多忙であるからこそ、時間を上手くコントロールし、時間と時間の間に神の義を行うためのスペース、神の愛を現すためのスペースを確保したいものです。そういった意味で、自制が求められます。
- ・同じように、私たちは神から与えられた健康も自制が必要です、体力に応じた

仕事量、活動、すべて神から託された管理にあたります。健康管理という大切な面です。このように日常生活では当然、自制は求められてくるでしょう。

④ 「自制には忍耐を」

- ・忍耐については、ペテロ第一の手紙で繰り返し語られてきました。ここでいう忍耐は我慢強さということより、神への確かな信頼という内容を備えたものです。忍耐とは神の力を信じ、神の導きに期待するゆえに、私たちに与えられる力です。なんの根拠もなく、ただじっと我慢する忍耐ではありません。

⑤ 「忍耐には敬虔を」

- ・敬虔とは、神を恐れて生きることです。それは神を愛することでもあります。イエスは次のように言われました。

マタイ福音書 22 章

22:37 イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

22:38 これが、重要な第一の戒めです。

- ・神のご主権を尊び、真のへりくだりをもって神を愛する歩みをさせていただくことです。それが敬虔です。

⑥ 「敬虔には兄弟愛を」

- ・兄弟愛とは、当然のことながら、単に兄弟間だけをさすものではありません。姉妹を含めた兄弟姉妹を指しています。前の敬虔が神への愛を現すのであれば、兄弟愛は人に向けられた愛であります。これも恵みの上に立つキリスト者に加えられるものです。

⑦ 「兄弟愛には愛を」

- ・最後に、これらすべてを総括するものとして「愛」(agape) が上げられています。信仰で始まり、愛で完結します。これらが七つの徳目、七つの恵みの性格です。
- ・キリスト者にこれらの「恵みの性格」が増し加わっていくなれば、信仰生活は躍動してきます。そして実を結ばせてくれます。すばらしい経験を重ねていく歩みです。神の恵みは、ますます私たちの内に熱心を起こさせてくれます。
- ・ペテロは「あらゆる熱意を傾けて」(1:5) , 生きることを勧めました。具体的には、信仰の上に徳から始まる六つの徳目が加えられて、信仰が全うしていくのです。それがキリスト者に与えられた恵みです。

◎ここで、「恵みの性格」を少し整理してみましょう。

- ・神は私たちに素晴らしい「七つの恵みの性格」を備えてくださいました。迫害と苦難、試練の中にあつた離散したユダヤ人クリスチャンに対して、苦しみはあるけれども、イエスをキリスト（救い主）と信じる聖徒には「恵みの性格」が備えられていると述べました。それは世の腐敗から免れて、神のご性質にあずかるものとなることです。100%、神からの贈物です。
 - ① 「恵みの性格」は、一つ前の「恵みの性格」の土壌の中で成長していくものです。つまりキリスト者の人格は、神の恵みによって成長するものです。
 - ② 「恵みの性格」は、違いが他を含み、融合して、環のようなつながり、恵みの品性を形成するものです。初めの信仰に富む人は、最後の愛にも富む人となるのです。
- ・このようにキリストにあって新生した人には、すばらしい人生が備えられています。ですから、私たちは偽教師に十分気をつけていかねばなりません。

ま と め

主 題：「信仰の視点はどこに」

—信仰の姿勢—

- ・ペテロの時代、偽教師が誤って教えを広めていました。それは現代にまで続く悪の力であります。世界の混迷度はますます深まり、クリスチャンも偽教師から騙されてしまいやすいものです。新生したクリスチャンはどのように生きるべきでしょうか。⇒「7つの恵み性格」に与る者となることです。そのためには、信仰の視点を神に向けて歩むことです。
- ・最後に、ヘブル人への手紙12章をもう一度読み終わります。

12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

* God bless you !